

## ＜調査研究シリーズ 132＞

カナダ地方自治体の移民プログラム調査：  
モーデン市における MPNP 実施

オストマン・ディビット

## 地方移住の必要性

カナダで農村部への移民の必要性が認識されるようになったのは、第一の理由として人口動態への懸念である。カナダの多くの小さな町は、高齢化、少子化に苦しみ、若い労働者が就職先を求めて大都市に移り住むため、過疎化が進んでいる。カナダの出生率は、1959年の最高値である女性1人当たり3.85人から、2019年には1.47人にまで低下しており、人口を維持するために必要な2.1人を大きく下回っている(Kalback, 2022)。さらに、2015年の報告書によると、都市中心部の職業の賃金は、農村部と比べておよそ30%高いと推定されている(Moazzami, 2015)。若年労働者の流出は、残された人口の平均年齢を引き上げ、多くの場合、バス、病院、ガソリンスタンド、食料品店などのサービスの低下をもたらす(Hutchins, 2018)。さらに、農村部の労働者の教育水準は低く、都市部と比較して失業率が高くなる要因となっている(Moazzami, 2015)。こうした複合的な要因の結果、カナダの田舎の過疎化は緩やかに進み、田舎の人口は2016年の総人口の18.7%から2021年には17.8%になった(Government of Canada, 2022年)。

熟練労働・就労移民は、配偶者や幼い子供を連れてくることが多いが、彼らを長期滞在するよう説得できれば、カナダの多くの農村地域が直面する人口的課題を解決できる。移民が最初の移住先を離れ、カナダ国内の別の地域に移住する二次移民は、移民を受け入れようとする農村社会にとって深刻な課題である。一般的に、都市部は雇用や教育の機会が多く、インフラやサービスが発達しているため、より多くの移民を惹きつける傾向がある(Brown, 2017)。また、移民は家族や友人がいる地域や、すでに移民コミュニティが形成されている地域に移り住む傾向が強い(Hyndman et al., 2006)。

移民がなぜその地域に留まろうとするのかを理解しようとする場合、これまではその町や都市が提供する雇用やサービスを特定することに主眼が置かれてきたが(Nguyen, 2020)、最近では、社会的なつながりや親近感、子どもの教育やキャリアの見通しといった非経済的な要因に基づく移民の意思決定プロセスを理解しようと

する試みがなされている (Kelly & Nguyen, 2023)。本報告では、85%以上の定住率を達成したカナダの小都市 (モーデン市) の成功事例を解明するため、移民局職員 (Immigrant Coordinator) と前市長への直接インタビューから得られたデータを提示し、1) 移民プロセス、2) モーデン市への定住の意思決定に影響を与える可能性のある「移民に提供される物質的・対人的サービス」について理解を深めることを試みる。

## モーデン市の概要

1882年にカナディアン・パシフィック鉄道の給水所を中心に設立されたモーデン市は、コミュニティが設立された土地の初期住民 (モーデン氏) にちなんで命名された (Manitoba Historical Society, 2023)。モーデン市は1903年に町として編入され (Lyon, 2012)、2012年に市制が施行された (The Canadian Business Journal, 2023)。アメリカ合衆国とマニトバ州の州境から約20キロに位置するモーデン市は、北米大陸の地理的中心部に近く、マニトバ州の州都ウィニペグから約1時間の距離にある。夏は短く、冬は寒く、1日の平均気温は4度前後、年間降雪量は115cmである (Government of Canada, 2023)。

最初に来たヨーロッパ人は、毛皮の取引とバイソン狩猟のためにやってきたが、1874年からは、農業に適した土地に魅せられたオンタリオ州からの入植者が移住を始め、その後、ユダヤ人やメノナイトの入植者が続いた (Lyon, 2012)。このような農業の伝統は、1915年に園芸作物や特殊作物の研究を目的とした連邦研究ステーションが開設されたことで強化され、農業がモーデン市経済の中心であり続けるために機能してきた (Jones, 2013)。

農業は依然として重要な産業であるが、モーデン市の経済は、農業、専門サービス業、医療、軽工業がバランスよく混在しており、750人以上の労働者を雇用している企業が12社ある (Government of Canada, 2019)。図2は、ウィンクラー SLA (Self-contained Labor Area) 地域 (モーデン市、ウィンクラー市、スタンレー市) の多様性を示している。

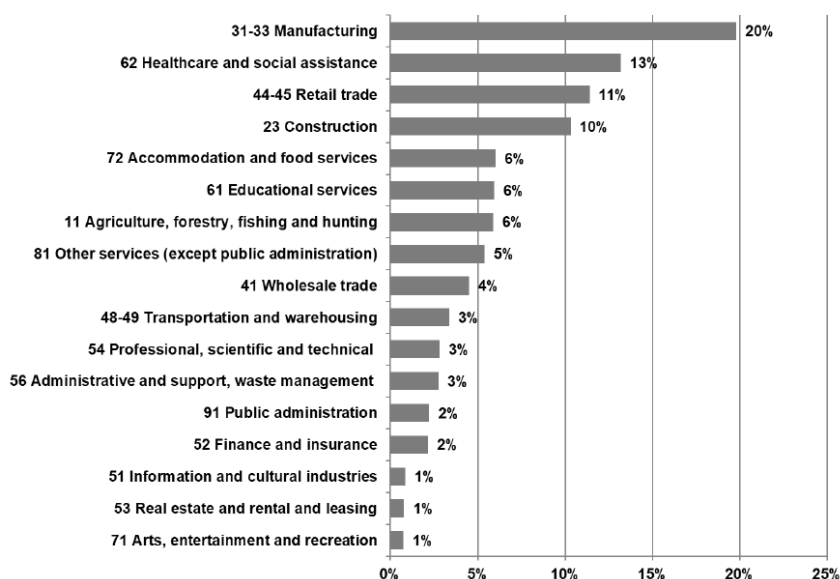
モーデン市経済の拡大は、地域人口の急増と相まって、1996年にはわずか5689人 (Morden, 2023) であった人口が、2021年には9,929人 (Sumner, 2022) まで増加している。しかし、この人口増加の前には、1961年から1996年の35年間で7.1%の人口減少があり (Rounds, 2001)、モーデン市とその周辺地域は、高齢化、少子化、緩やかな過疎化という人口統計上の課題に直面しながら、21世紀を迎えようとしていた。

2006年から2011年の間に人口は19%以上増加し (The Canadian Business Journal, 2023)、2016年から2019年には13%増加した (Statistics Canada, 2021)。さらに、この後期の成長のほぼ半分は移民によるものである。マニトバ州の多くの農村地域が

縮小している現在、モーデン市は州内で最も急成長している地域のひとつとなっている（Henderson, 2022）。

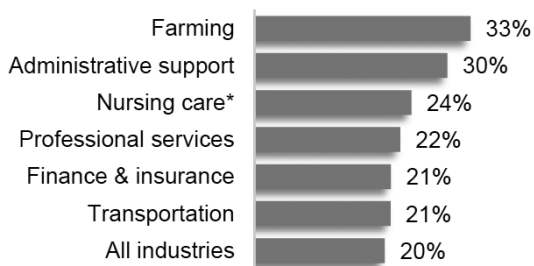
モーデン市における積極的な移民政策は、地元の労働力を強化する戦略として、2012 年にモーデン地域主導型移民イニシアティブ（Morden Community Driven Immigration Initiative；MCDII）から始まった（Henderson, 2022）。ブランドン・バーリー前市長によると、このプログラムは、会計士、医師、歯科医師といった高技能職種の労働力不足に対処するために考案されたが、職業訓練生やその他の専門技能を

図 1：産業部門別雇用（2019 年）



(Government of Manitoba, 2019)

図 2：55 歳以上の労働人口のシェア



\*Nursing and residential care services.

(Government of Canada, 2019)

表1：2021年のモーデン住民の母語

言語	#	%
英語	6,275	72.2
フランス語	80	0.9
その他	2,335	26.8

(Statistics Canada, 2021)

必要とする職種など、他の技能カテゴリーにも拡大するようになった (Henderson, 2022)。2019年現在、モーデン市の総人口に占める移民の割合は19%である (Government of Canada, 2019b)。市の多様性は、英語もフランス語も母語としない住民の多さにも反映されている。

こうした地元人口を移民で補っていても、モーデン市は多くの産業において、相当数の高齢従業員の後任を見つけるのに苦労し続けている。

さらに、移民は人口統計上の課題を緩和させる役割を果たすが、出生率の傾向から見ると、これまでの成長を維持しつつ、高齢者向け医療サービスなどの産業の成長に新たな労働者を供給するためには、積極的な移民政策が必要である。コロナパンデミック (COVID の大流行) の長期化により、移民の入国手続きは行われたものの、国境規制によりカナダに入国できなかったことも、雇用者と移民候補者の双方にとって課題となっている (Sumner, 2022)。

移民に依存しているため、前モーデン市長の FM は「移民を受け入れなければ、10年以内に衰退途上国になるだろう。簡単なことだ。政府はそれを知っている。なぜなら、私たちには子供がいないし、すでにいる若者は皆、職を持っているからだ」と述べている (D. Ostman, personal communication, April 7, 2023)。

バーリー現市長によると、州都ウィニペグからの住民の帰還・移転や、高速インターネットアクセスを活用して遠隔地での仕事に従事できる専門職の流入により、成長するモーデン市経済はさらに活性化しているという (Sumner, 2022)。2005年から2015年にかけて、6万ドルから9万9000ドルの収入 (\$60,00 - \$99,000) を得る労働者の数が劇的に増加し、州平均を上回ったからである。大勢の熟練労働者を受け入れた結果、その地域の平均世帯所得が減少したのではなく、むしろ49,999ドル以下の世帯の割合が減少したことを示している。さらに政府は、移民100世帯の経済的貢献度を次のように見積もっている。

表 2：移民 100 家族の年間経済効果

Category	Economic Impact (\$)
住宅ローン，電気代，固定資産税などの住居費	\$1,500,000
車両の購入やメンテナンスなどの交通費	\$1,300,000
地元の食料品店やレストランでの食費	\$800,000
地方政府，州政府，連邦政府に対する年間税金	\$2,200,000

(Government of Canada, 2019)

## モーデン地域主導型移民計画 (MCDII)

以下では，MCDII のプロセスを概説する。表 3 は，入国審査のステップの概要である。

### 1) 応募書類の提出

まず地域レベルで，地元の事業主が必要とする職種を特定することから始まる。そして，地元自治体（モーデン市）は，州との協働により，1) 州のガイドラインを満たしていること 2) 希望する候補者を確保できることを確認する。そして，最終的に連邦政府の承認を得ることになる。

表 3：モーデン地域主導型移民計画 (MCDII) の手続き

過程	手続き
1	カナダ国外在住の応募者は，モーデンのウェブサイトに応募書類を提出する。
2	モーデン市移民局は申請書を審査し，候補者を選ぶ。選考は独立した選考委員会によって行われ，最終的な承認が下される。
3	モーデン移民局は，選抜された候補者にモーデン訪問の招待状を発行する（申請者負担）。
4	合格者はモーデンから指名を受ける（500 ポイントが与えられる）。
5	マニトバ州指名プログラム (MPNP) への参加希望者は，関心表明書 (Expression of Interest) を提出する。
6	MPNP 合格者は，カナダ移民・難民・市民権省 (IRCC) に申請書を提出する。
7	合格者には永住権が与えられ，配偶者や子供と一緒にカナダに入国することが許可される。

志願者はインターネット上で MCDII の熟練労働者プログラムに申請書を提出する。申請書はカナダ国外から提出しなければならない（カナダ国内の派遣労働者は MPNP に申請できるが、MCDII には申請できない）。MCDII のウェブサイトには「In-Demand Jobs」が記載されており、需要のある職種については「経験者優遇にする」と明示されている。

## 2) 申請書の審査と最終的な承認

モーデン市の移民局が応募書類（通常約 1,000 件、約 45 日ごとに集まる）を審査し、その中から 10~20 件程度を選出する。選出された応募者は、別の委員会に回され、承認または却下される。承認された応募者には、モーデンへのトライアル訪問（Exploratory Visit；1 週間、費用は応募者負担）が行われる。このように、応募から委員会の承認、トライアル訪問の招待まで、通常 2 ヶ月を要する。

## 3~7) 招待状の発行

このトライアル訪問が成功した場合（すべての訪問が成功するわけではない）、モーデン市の現地オフィスから 500 ポイントが与えられ、このポイントはマニトバ州指名プログラム（Manitoba Provincial Nominee Program；MPNP）に参加するための関心表明（Expression of Interest；EOI）を提出する際に利用することができる。MPNP は、最も高いポイントを持つ EOI を選択し、提出者に MPNP への応募を呼びかける。合格した申請者は承認される。この時点で、さらに 6~8 カ月（合計 8~10 カ月）かかる。承認されると、MPNP は IRCC（Immigration, Refugees & Citizenship；移民・難民・市民権省）に申請者を推薦し、最終承認を得る。ファストトラック（訪問後 10 ヶ月=1 年程度）とスロートラック（訪問後 1 年半~2 年=20 ヶ月~26 ヶ月程度）がある。このプロセスを経た応募者はカナダに移住することができる。

## MCDII の特徴

MCDII をより深く理解するため、本調査では 2024 年 2 月 20 日、モーデン市（以降は Community of Morden；COM）移民コーディネーター（IC）と前モーデン市長（FM）にモーデン市でインタビューを行った。以下のセクションでは、移民プロセスに関するインタビュー対象者の考えと、モーデン市の移民プログラムの成功に重要であると思われる特徴について概説する。

## 移民受け入れの恩恵と課題

前市長は MCDII について話し合いの中で、モーデン市のプログラムと、同じく積極的な移民政策によって過去数十年にわたって大きな成果を上げてきた近隣のウィンクラー市のプログラムを比較した。当初、市長は移民政策がこの地域にもたらすプラス効果について明確に語っていた。

DO： それぞれ（ウィンクラーとモーデン）の移民政策を立ち上げた後、後悔はないと思いますか？

FM： いいえ、まったくありません。どちらかといえば、もっと来てほしい。この町の製造業をさらに拡大したい。そうした雇用があつてこそ、人口を増やし続けることができるのだから。

DO： 人口増加のメリットは？

FM： 自治体サービスの向上です。人口が増えれば、医療サービスも向上します。これは私がこの町の出身だからかもしれませんが、私はいつも隣のウィンクラーと比較して、モーデンは文化的な町だと考えています。隣人は私たちに比べてビジネスの町です。そしてそれは、移民にとってここに来る際の大きな考慮点だと思う。私たちのレクリエーション施設は素晴らしい。

人口が減少すれば、社会サービスやインフラを削減する必要があるが、経済の拡大により人口が増加すれば、病院や救急サービス、学校、公共事業、文化的アメニティなど、住民にとって重要なものが増える。一方で、COM の水供給等が課題になり、自治体の成長に妨げになっている。

FM： モーデンには湖がありますが、2年前の干ばつで水が足りなくなり、川から水を汲んでいました。でも、人口が増えれば、必要な水が問題になります。そのため、私たちはもっと学ぶべきことがあり、開発できる土地はありますが、より大きなコミュニティにサービスを提供できるよう、必ずしもすべてが完璧に整っているわけではありません。

IC はインフラ問題や住宅不足に言及しながらも、両問題の解決の可能性については前向きな姿勢を示した：

IC：しかし、来年には住宅事情は変わっているかもしれません。住宅開発業者は一時期意気揚々としていたのですが、下水処理能力の問題が発生し、モーデン市が建築許可を与えなかったのです。今、彼らは計画を立てており、再び建設に取り掛かっています。

## 雇用から始める

ICによれば、移民プロセスは移民希望者からの申請書を審査することから始まるのではなく、地元企業へのアンケート調査を実施し、現在および将来の雇用ニーズを把握することから始まる。また、計画中のプロジェクトの雇用への影響も考慮する。現在と将来の雇用機会を把握した上で、COMは市のウェブページ *Skilled Worker Program* ([www.modernimmigration.com/skilled-worker-program](http://www.modernimmigration.com/skilled-worker-program)) で募集を告知する。

申請手続きには最長で2年かかるため、候補者を現在の求人とマッチングさせようとすると、その間に雇用主が人手不足に陥ることになる。このような事態を防ぐため、雇用主は、COMが事前に募集できるように、場合によっては1年以上前に将来の雇用ニーズを示すよう奨励されている。そのため、COMは事前に採用活動を行うことができる。ICは次のように説明する：

IC：来年か再来年には保育園がいくつか開園することがわかっているので、幼児教育経験者を自治体に呼び入れているんです。20人採用する必要があるれば、20人確保できます。だから、いい意味でダイナミックなんです。しかし同時に、もし保育園が建設されなければ、20人の幼児教育者が職に就けなくなります。だからゲームなんです。将来を見据えて、雇用主が何を求めるかを決めるのは楽しいゲームです。

重要なことは、MPNPは技能労働者であるという基準を満たす候補者しか認めないということである。非熟練労働者、または一部の職業（例えば、医療補助者）の労働者は申請資格がない。連邦ポイント制と同様、MPNPは、候補者が考慮されるために、6つの基準で一定の点数を取ることを要求する（付録A参照）。これらの基準には、言語要件（英語またはフランス語）、年齢要件（21歳から45歳が最高点）、職歴、学歴、リスク評価（マニトバ州外に住む近親者は減点）、そして最後に“適応性”と呼ばれる評価項目が含まれる。

この評価により、COMが選出した候補者には、「*Invitation to Apply under a Strategic Initiative*；戦略的イニシアチブ『実験的プログラム』の下での招待」カテゴリーでさらに500ポイントが加算される。最大許容ポイントが1000ポイントである



図 3：MPNP EOI 第 5 評価項目：適応性

Factor 5: Adaptability	
Connection	
Close relative in Manitoba	200
Previous work experience in Manitoba (6 months or more)	100
Completed post-secondary program in Manitoba (2 years or more)	100
Completed post-secondary program in Manitoba (one year)	50
Close friend or distant relative in Manitoba	50
Manitoba Demand	
Ongoing employment in Manitoba for 6 months or more with long-term job offer from the same employer	500
Invitation to Apply under a Strategic Initiative	500

(Manitoba Immigration, 2023)

ことを考えると、このポイントは、必要なスキルや職務経験を持ちながら、学歴や言語能力で低いポイントを受ける可能性のある候補者にとって不可欠なものである。これは、連邦ポイント・システムとは対照的で、最も高いポイントを持つ候補者は考慮されるが、多くの仕事、特に様々な職業には相応しくない可能性がある。MPNP では、現地の雇用主は、学歴や語学力の高い候補者ではなく、主に雇用の必要性に基づいて候補者を選ぶことができる。

## 個人選考プロセス

モーデン市は現在、定住移民からのロコミ広告を中心に数千人の応募を受け入れているが、当初は市当局も候補者探しに積極的にならざるを得なかった。深刻な労働力不足に促され、2008年、モーデン市の職員はカザフスタンを訪れ、58人の応募者と面接を行った。

現在、COMは2カ月に1,000件以上の応募を処理しており、採用のためにカナダ国外に出張する必要はなくなった。しかし、候補者は応募者のおよそ5%に絞られるため、選考プロセスは極めて個別的なものとなる。FMによれば、選考プロセスは適切な労働者を見つけることを目的としているが、「選考プロセスの第一の目的は、長期滞在してくれる人を見つけること」である。他のプログラムでは、第三者であるリクルーターやコンサルタントが入国審査の仲介を行うが、COMではそのようなことはない。ICによると：

IC：最初の段階では、スカイインタビューをします。彼らの家族とも話します。親密に数え切れないほどのメールを送り合います。彼らが作ったスープの写真を送ってくれることもあります。そういうつながりなんです。

移民「仲介者」を排除するだけでなく、この1対1のコミュニケーションは、モーデン市での生活に適さない候補者を排除する役割も果たしている。ICは、候補者の審査には経験が重要であることを示している：

IC：10年経って選考がうまくなりました。私はありとあらゆる嘘をつかれてきました。誰が嘘をついているのか、勘のようなものが働くようになります。『ああ、そうだね』っていう感じ。

COMの選考プロセスのもう一つの特徴は、匿名の選考委員会が、移民コーディネーターが選んだ候補者について最終決定を下すことである。この委員会は、COMの移民コーディネーターの活動をチェックし、移民プロセスを監督する役割を果たす。承認されると、COMは候補者に対し、1週間のトライアル訪問「Exploratory Visit」でモーデン市に来るよう招待状を発行する。とICは説明する：

IC：私が40人と面接し、そのうちの40人が委員会に送られます。委員会は『この中から30人を選んでトライアル訪問を行おう』と言います。そのうちの20人が観光ビザを取得してカナダに来て、その20人のほとんどが永住することになります。

トライアル訪問には、いくつかの役割がある。第一に、COMのスタッフ、候補者、地域の人々が非公式な面接を行い、申請者がモーデン市への移住に適しているかどうかを判断する。この期間はまた、マニトバの田舎に本当に移住したいかどうかを検討する機会にもなる。田舎は孤立しており、冬が長いので、移住希望者にとっては厳しい環境である。旅行の手配や費用は候補者が負担するため、よほど真剣な候補者以外は参加できない。また、COMの移民コーディネーターに加え、個人的なつながりを作ることで、そのコミュニティに定住するのか、それともモーデン市以外に移住するのかを移民が決める際に、重要な役割を果たすことになる。トライアル訪問の最終的な役割は、共通の文化的背景を持つ定住移民との交流を通じて、適さない候補者を発見することである。

IC：裏情報が漏れていますよ。候補者と同じ文化的背景を有する人たちに会って、話してもらいます。年に何百人とくる候補者のうち、1、2人については『この人は定着するかどうか分からない』というようなことがある。過去には、『この人は定住しないだろう』とか、『彼らはトロントにコネクションがあるようだ』とか、COMには話していないことが1回か2回あったかもしれません。

このようなことは重要である。モーデン市に近親者がいることは選考においてプラスとみなされるが、移民コーディネーターは他の地域に親戚がいる応募者をすぐに排除する。FMによれば、「トロントに親戚がいるなら、リストには載らない」という。手厳しいが、COMは移民が、たとえ雇用やサービスがより遠い場所で十分であったとしても、親しい親戚の近くに住むことを選ぶことが多いことを意識している。一方で、COMの移民コーディネーターは、友人や親戚を候補者として推薦する定住移民から頻繁に相談を受けつけている：

IC：買い物に行くと、いつも私がインタビューした移民に出くわします。私がモーデンでの最初の友達だから、立ち止まってみんなと話さなければならないです。彼らはモーデン市から引っ越したりせず、どんどんやってきます。『従兄弟が引っ越したがっているんだ』とか『兄弟がいるんだ』とか『友達がいるんだ』とか。家に帰ると、息子たちが『なんで20分も遅れたんだ』と聞いてくるが、たいいていは、彼らがモーデンに連れてきてほしい人の話をするせいだ。

定住移民からの個人的な推薦は、定住した移民の薦めた人々はモーデン市に留まることが期待できる。さらに、友人や家族を推薦する定住移民は、非公式な身元保証人としても機能しており、推薦した人々に対してある程度の責任を持っている。

MCDIIのもうひとつの特徴は、選考プロセスが率直に行われていることだ。人道的な目的で行われることもある難民グループの処理とは異なり、COMはモーデン市に貢献する確率が最も高いと思われる応募者を選んでいく。

DO：もう一度、選考プロセスに話を戻しますが、あなたがやっていることはタブーのようなものです。つまり、「それはいけない。例えば、トロントに親戚がいる移民はいらない。年配の移民はいらない。10代の子供のいる移民を受け入れたくない。」ということですが、10代の子供を持つことは悪いことでしょうか。彼らはどうすればいいのでしょうか？

IC：私たちは、ネガティブな選考プロセスではなく、ポジティブな選考プロセスだと考えたい。そして、応募者が「なぜ私は不採用になったのですか？」と尋ねたら、私は「あなたは不採用ではありません。」と答え、「目の前には100人の応募者がいた。その中から、モーデンで成功する可能性が最も高いと思われる50人を選んだのです」と。

私たちの選考プロセスは、何かを理由に不合格にすることではありません。「この人はずっと小さな町に住むだろう」「この人はずっと田舎に住むだろう」といっ

たポジティブな要素で選考するのです。そうすることで、応募者が初めてモダンに来たときに、田舎に住んだことがあるからパニックになることはないだろうという安心感を与えることができます。これはポジティブな選択なのです。

## 低技能労働者と子供

MPNP は技能労働者プログラムであるが、COM は、MPNP の基準を満たさず、地元での雇用が困難な低技能職の労働者に対する大きな需要がある。特に、サービス業やヘルスケア産業の仕事は、地元の雇用主や健康補助を必要とする高齢者にとって深刻な問題である。COM のアプローチは、申請プロセスにおいて候補者の配偶者を考慮することである。

DO：私が働いたアルバイト先では皿洗いの人や掃除の人が他の国の人だったことがよくありました。でも、彼らが生まれた国では何をしていたのかと聞くと、教師か会計士だったと言うんです。つまり、彼らは母国では専門職であったのに、カナダでは低技能労働者になっていたのです。連邦政府のポイント・システムの欠点は、多くのポイントを獲得してカナダに入学しても、その資格が認められず、清掃員として働くことになることだと私には思えました。適切な人材と利用可能な仕事がマッチングされず、結果として不満が募っているようです。

IC：それは確かに連邦制度の問題ですが、我々の制度では解決可能な問題です。MPNP は熟練労働者を誘致しているので、MPNP のリストには皿洗いは入っていません。だから皿洗い職人を連れてくることはできません。しかし、地元の雇用主は皿洗いを必要としています。マクドナルドは常に人手不足を叫んでいます。マクドナルドに人を入れるには、配偶者を持って来るしかないのです。看護師もその一つで、医療補助者が本当に必要なのです。フィリピン人の看護師は、ほぼカナダの看護システムで訓練されているので、自然とその役割になじみます。MPNP が（フィリピン人）看護師を入学させないのは、彼らが入学してもその職業で働ける熟練労働者に必要な資格を持ってないからです。

DO：そうですね。再認定を受けるには、ある程度の期間が必要です。

IC：ええ、でも国は医療補助員としては入れてくれないんです。こうしたことは私たちにとっては合理性がないのです。だから申請書を見て、主な申請者が技術者の場合、「ああ、この10人は使える。でも、10人の技術者に比べれば、看護

師の妻を持つ5人のほうが使える人材だ。」楽しいゲームでしょ？だから私たちは、このような方法で低技能労働者のポジションを埋めようとしているのです。

応募者の配偶者の労働能力を考慮すると、熟練労働者を入れることで低技能職を埋めることもできる。医療補助者の場合、労働者の確保が難しいことで有名な業界で、配偶者は最小限の再資格取得で仕事を始めることができるかもしれない。

さらに、静かなコミュニティに多数の若い独身労働者を移住させることに比べると労働者が配偶者を連れてくることを許可することのほうが有利だ。若いカップルはカナダの出生率の低迷にも貢献しており、移民の女性はカナダで生まれた女性に比べて出産数が多いことが実証されている (Singer, 2019)。FM はこれを裏付けるようにこう言う：「出生率が高いのは移民のおかげです。もともとここにいた人たちのおかげで高いわけではないのです」。

若い移民カップルがカナダで出産することは肯定的に受け入れられているが、移民が子連れでカナダにやってくる状況についての考え方は、少し慎重である。COM の場合、子連れの申請者は、子供が幼いという条件付きではあるが、有益であると考えられている。

IC：小さな子供たちを見るのが好きなんです。でも、高校生には会いたくないのです。その理由は、すべての文化が18歳の子供を実家を離れて大学へ行かせることに慣れているわけではないからです。私たちは、大きい子供がいるからといって、必ずしもその人を不合格にするつもりはありません。ただ、私たちが見たくないだけなのです。小さい子供の方が、より馴染みやすいからです。

このアプローチは、厳しいものではあるが、移民の子どもたちの多くにとって、幼い頃からカナダで学校教育を受ければ、カナダ社会にそれほど苦労せずに適応できるという現実を前提としている。逆に、新しい町、気候、学校に適応しなければならない10代の子どもたちは、カナダでの生活をより困難なものと感じるだろう。しかし、COM が20代から30代前半の移民を受け入れることを目的としていることを考えると、10代の子供の扱いに困ることは少ない：

IC：ティーンエイジャーになるのは大変なことだし、他の子供たちと同じ言葉を話せない場所に放り込まれるのは大変なことです。ただ、私たちが断るようなことではなく、私たちが目にする子供たちのほとんどはとにかく小さな子供たちなんです。

## 政府各レベルでの協力体制

MCDII の重要な特徴は、州政府 MPNP および連邦政府移民局 (IRCC) と円滑に機能していることである。IRCC はカナダへの移民を最終的に決定する一方、MPNP に対しては、連邦政府の制度では通常資格を得られない申請者にポイントを割り当てる際に十分な自由度を与えている。一方、マニトバ州は、現在および将来の雇用需要に対応するため、COM にその裁量で柔軟性を与えている。前の市長 (FM) によると、COM は、隣接するウィンクラー市ですでに積極的な移民プログラムが開始された後に移民プログラムを開始したことで、恩恵を受けている。以前、州政府および連邦政府の移民プログラム規則が遵守されず、移民が不当に扱われたことがあった。連邦政府によって規則が遵守されていることを確認し、移民の擁護者として活動するために、ウィンクラー市に連邦移民事務所 (Regional Connections) が設置された。

FM は市長として COM とマニトバ州の仲介役を務め、MCDII が州および連邦の規則を厳守するよう努めた。FM によれば、州都と連邦政府の役人に対する彼のメッセージはシンプルだった：「忠実に従いますのでルールを教えてください」。IC は、規則を守ることの重要性、既存の枠組みの中で働くことの重要性を訴えた。例えば、MCDII は基本的に熟練労働者プログラムだが、モーデン市では単純労働の需要もある。したがって資格を持つ熟練労働者の配偶者の資格を考慮することによって、低技能労働者や医療補助者を移住させるといった目標を達成させることの重要性を強調した。

MCDII の承認を得るための最初の事務手続きには1年以上を要した。FM は3つのレベルの政府間の協力の重要性を繰り返し強調し、次のように述べた：

FM：3つのレベルの政府の後ろ盾が必要です。連邦政府、州政府、そして地方自治体のバックアップが必要だ。そのすべての後ろ盾がなければ、本当に厳しい道のりになる。

日本の小さな町がモーデン市のような戦略を取るにはどうしたらいいかという質問に、FM ははっきりとそう答えた。

## 地元の人々へのメッセージ

モーデン市への移民の必要性和恩恵を明確に理解している政府関係者とは対照的に、地元住民は政府の政策を誤解したり、移民の到着によって始まった社会の変化に憤慨したりすることがある。

IC：(MCDII を) 説明するのはとても簡単だし、説明の仕方は何年もかけて練習してきました。あとは、移民に会ったことのない人たちに会わせる機会を作ることにも非常に有効だと思います。一人の(移民を)3週間家に住まわせたり、ニューカマー・ナイトに来たり、ランゲージ・バディ(会話ボランティア)になったり、何でも(本当に効果的です)。喫茶店で「ああ、移民は嫌いだ」と一人が言っても「ああ、うちにはたくさんの人がホームステイしていて、悪い人たちじゃないよ」と答える会話もある。

よくある誤解は、市民にとって MCDII を通じてモーデン市にやってくる移民と、生活保護を不当に利用していると受け取られかねない他の移民グループ(難民など)の区別が難しいというものである。

IC：一般の人は時々混同してしまいます。少し調べれば誰でもその違いはわかると思います。でも、私たちは常に、私たちのプログラムをどのように紹介するかについて、かなりクリーンな状態を保とうとしているんです。ある市民からは「私の家の地下室に25歳の息子が住んでいるんですが、仕事に就けず、移民に仕事を取られているんです。」と言われます。私たちは「雇用主が求めているから移民を受け入れている」と言えるようにならなければなりません。移民が来てくれたから、ここにはなかったであろう500の仕事を提供している会社がここにあります。そのような雇用は非常にクリーンでなければなりません。だからこそ、ウクライナ難民が来たときには、これはまったく違う状況だと伝えなければならなかったのです。私は今でも難民を移住させる委員会の一員です。それは私たちの移民プログラムの一部ではなく、慈善事業です。

マスメディアに取り上げられることの多い難民とは対照的に、モーデン市にやってくる移民は、施しを受けるためにやってくるのではなく、コミュニティに雇用を提供するために自らの貯蓄を携えてやってくる個人や家族である。ICは、移民局の責任として、明確な貢献をもたらす移民だけを受け入れることを示している：



IC：私たちの事務所は、常に物事を明確にしなければならない。なぜなら、私や他の職員の給料、そして私たちが運転する公用車には税金が投入されているからです。移民たちはEI（雇用保険）で生活しているわけではありません。彼らは30,000ドルを持って来ています。家を買ったりしています。

ホームステイなどの実体験に加え、COMはメディアを通じたメッセージも活用して移民の存在を説明してきた：

IC：人を集め始めた当初は、毎週新聞にプロフィールを載せていました。新しい顔に名前や自己紹介を付けてもらうために、誰かにインタビューしました。必要な情報を提供するために、提出する内容やすべてに関して、私たちが納得できるように内容の手助けをしました：「この人には子供がいる。これは彼らの希望だ。これは彼らの夢だ。」

もう十分報道されているから、現在は私たちはそれほど多くのことはしていません。移民の人たちは、ウィンターフェストやその他の多文化イベントに参加するなど、自分たちで何かやっています。

DO：必要な交流ができているのであれば、ある時点で、これ以上やらなくてもいいということになりますよね。

IC：そうですね。最初の頃は、ニューカマーの話をするのが情報を伝える最良の方法の一つでした。

ICのコメントは、MCDIIの初期段階において、その広報や移民のプロファイリングにエネルギーを費やすことの重要性を示している。しかし、ある時点で移民の社会的関与が顕著になり、社会的認知度が高くなると、そのような努力はあまり重要でなくなる。

ICは、移民とその活動の広報に加え、文化的な違いを認識するための個人的な交流の重要性も示している：

IC：必要なのは実体験による共感を持つことです。先日、カタールから来た6人の子持ちの男性と一緒に座っていたんです。私とそういう人の共通点って何でしょうか？子供たちが病気になったとき、私たち2人は不安でたまらなかったし、彼は一晩中子供たちのそばにいて、熱が出ないように気を配っていました。最後には二人とも泣いていました。一度、お互いにとって重要なことに共感できたら、



それからは「私たち対彼ら」という考え方はしなくなります。

## ソーシャル・エンジニアリング

上述したように、モーデン市が MCDII を開始したのは、隣接するウィンクラー市がすでに移民斡旋業者を使ってかなりの数の人々を受け入れた後であった。コンプライアンス違反の問題に加え、その結果、単一の民族グループ（ドイツ系メノナイト）から大量の人々がウィンクラー市に移住することになった。IC が説明する：

IC：モーデン市の移民の受け入れは（ウィンクラーより）ゆっくり始まりました。ウィンクラーは 10 年か 15 年前に、ドイツから来た 1 つの文化圏の人々で埋め尽くされたんです。膨大な数です。ウィンクラーで働くこの移民斡旋業者は、ウィンクラーでたくさんの人を移住させることに成功しました。

メノナイト系移民（ドイツ系）の民族的同質性は、地元のウィンクラー市の住民に配慮した意図的な計算であった。それにもかかわらず、FM はイングループ／アウトグループの認識に起因する最初の困難を示した：

FM：移民問題は、移民がウィンクラーで不当な扱いを受けていることでした。主にウィンクラーの商人たちの態度が、「ここにカモがいる。騙してやろう」という態度だったようです。

とはいえ、ウィンクラー市もモーデン市と同様、その定着率の高さは称賛されている。ウィンクラー市の成功は、新旧住民の文化的同質性にあると評価する人もいる。この戦略は成功と言えるのか、と問われた IC は、モーデン市に対して別のビジョンを提示した：

IC：何をもって成功と呼ぶかは人それぞれです。同じことの繰り返しの統合か？定着率の高さが成功なのか？私はいつも多文化主義が好きです。通りを歩いていて、そこにいるすべての人が異なる文化を持っているというのが好きなんです。ドイツ系の住民ばかりではないのです。モーデンでは、最初はゆっくりと、そして非常にゆっくりと多様化していくプログラムからスタートしました。だから、仕事を始めたばかりの頃、フィリピン人がこの地域に滞在してくれるだろうか、と考えていたのを覚えています。「一家族だけでなく、複数のフィリピン人家族が必要です。仕事を見つけ、定着しそうな人を探そう。半分でも定着すれば、

もう少し増えるかもしれない」と思いました。今、フィリピン人の人口はかなり多いです。モーデンにはフィリピン人が多く住んでいるのです。

最初のインド人家族、最初のバングラデシュ人家族を連れてきたことを覚えています。だから、誰が定着するのか、どうすれば定着させることができるのか、同じような人をどんどん入れるのではなく、少しずつ意図的にやっているんです。

モーデン市とウインクラー市は、地理的には隣接しているにもかかわらず、民族的には常に異なってきた。当初からドイツ語を話すメノナイトの移民で構成されていたウインクラー市とは対照的に、町として編入された当時のモーデン市は、英語を話す様々なグループで構成されており、メノナイトの人口は全体の3分の1程度に過ぎなかった。モーデン市では、早くからさまざまなグループ間の協力が必要であったため、他の地域と比較して、文化の多様性に対して寛容であった可能性がある。モーデン市のアプローチでは、多文化主義を、単にさまざまな民族がコミュニティ内に存在すること以上のものとして捉えている。むしろ、コミュニティのあらゆるレベルで、さまざまな民族グループを統合しようと試みているのである。

DO: 多様化を図ろうとしているわけですね。

IC: 他の小さな町に行くと、白人以外の人々はマクドナルドや豚舎で働いています。監督している人たちは一つのグループ、そして移民は最低賃金で働いているからフードバンクに預けられているような社会に誰が住みたいと思うでしょうか？ 私たちはあらゆるレベルの仕事に多様性を持たせようとしています。移民を最も安い労働力として使っていないという点で、多くの小さな町とは一線を画しています。実際、私たちは社会のあらゆるレベルで移民を受け入れようとしています。

DO: あなたは下層階級を作ろうとしているわけではありません。

IC: そうです。地元の人たちを雇っている経営者がいます。彼らの上司の中には移民もいます。新しく入ってきた企業の中には、経営陣がすべて私たちの仲間（つまり、モーデンが移民として連れてきた人々）になっているところもあります。カナダ全土に展開しているドライブ・プロダクツ (Drive Products) という会社があります。彼らは人探しに疲れていました。

マニトバ南部の外から来た彼らには、長期的にビジネスを続けている人たちのような先入観がありません。そのため、私たちの中から経営スタッフ全員を採用します。見たこともないような多様な経営スタッフです。このような企業に採用

される人材を提供できるのは、素晴らしいシステムだと思います。

私たちはまた、モーデンを1種類の仕事をする1つのグループの人々で溢れさせることのないよう心がけています。私たちは、さまざまな民族がさまざまなレベルの仕事に就くことを望んでいます。

## 初期サポート

トライアル訪問の習慣に加え、モーデン市の最初の移民受け入れは全国的に知られるようになった。ウィニペグ市に降り立った移民をモーデン市のスタッフが空港で出迎え、モーデン市まで送迎するだけでなく、移民には1週間の宿泊と食事が提供され、新しい環境に慣れるための時間が与えられる。ICはこのプロセスをこう説明する：

DO：では、実際に空港で会うのですか？

IC：そうですね。今年は入国者数が3倍になったから、ボランティアの手配が大変だったんです。プログラムが始まった当初は、私一人でした。週に何度も空港に行っていました。

DO：市営住宅はありますか？

IC：トランジション・アパートメント（仮の住まい）を10戸借りています。家具を用意して、家賃をもらいます。目標は収支を合わせること。一泊100～150ドルのホテルに泊まるのではなく、Airbnbのように家具やタオル、寝具、キッチン用品など必要なものがすべて揃っているところに泊まるのです。キッチン用品もすべて揃っています。

地元の食料品店は素晴らしいです。到着した人全員に、善意で食料品を3袋くれます。だから、到着した人たちが仮の住まいに入ると、時差ぼけから回復するまでの2、3日分の食料があるのです。

空港サービスや食料品は無料で提供されるが、トランジション・アパートメントを利用する移民は家賃を請求され、すぐに自分で宿舎を見つけることが求められるため、MCDIIが慈善事業として運営されているわけではないという現実がわかる。FMはCOMの高い定着率を、その多くがモーデン市のニューカマーに対する対応の成果だと評価している：

FM: 定着率を高くするのは、最初の段階が鍵だと思います。最初の段階でどう接するか、彼らの足元を固める手助けをします。彼らはいろいろな物資をただでもらいに来たわけではないが、猛吹雪に遭うとかなりのショックを受けます。

FM はまた、人々を歓迎するだけでなく、アフターケアを提供することの重要性も指摘した。

FM: 私は、人々がここに留まるようになるのは、モーデン市に着いてからの出来事次第だと思います。例えば、彼らは歓迎され、そしてあそこ(リージョナル・コネクションズ)のオフィスの職員がフォローしてくれます。相談したい人は自由に来て相談できます。IC は、新しい人たちが集まってお互いに顔を合わせる歓迎会を行います。地元の人々はかなり受け入れてくれていると思います。異なるグループ間の民族的な問題は聞いたことがありません。

COM が申請者を選考し、ファーストコンタクトのケアをしているが、一方で移民は、住む場所を探し、雇用を確保し、運転免許証や自家用車を取得し、幼稚園や学校に子どもを登録する手続きをしなければならない。連邦政府の部局であるリージョナル・コネクションズ (Regional Connections) は、ウィンクラー市とモーデン市の両方に事務所を構え、移民が必要なサポートを受けられるようにしている。

FM: リージョナル・コネクションは大いに役立っていると思います。ニューカマーが相談できる相手がいるという事実だけでも重要です。味方がいるのです。昨年、ウィンクラーには 530 人が来たと思います。私たちは 500 人でした。両市にリージョナル・コネクションズの事務所があることは大きなことです。

リージョナル・コネクションズは、ニューカマーのための定期的な英語クラスなど、言語サポートの提供を担当している。MCDII を通じてモーデン市にやってくる熟練労働者は英語でのコミュニケーション能力を持っているが、配偶者が社会で機能するためには、さらなるサポートを必要とすることが多い。

リージョナル・コネクションズ事務所のもう一つの役割は、移民と地域住民が交流する機会を提供することである。しかし、主な役割は、必要なサービスを受けるべき移民を支援することである。IC は、リージョナル・コネクションズ事務所で現在行われている活動の一部と、現在のシステムの欠点について詳しく説明する：

IC: 彼らはいろいろなことをやっていて、大勢の人を相手にしています。来てい

る人は知らない人ばかりです。その人その人に合った対応ができるようになってきています。例えば、本当に困っている人がいれば、ケースワーカーを雇います。そうでない場合は、チェックリストがあります。「子どもは学校に登録されていますか？チェックしてください。問題があればまた来てください。」しかし、「ねえ、仕事は見つかったか？」と手を差し伸べることはありません。

だから私たちの仕事は、リージョナル・コネクションズのサービスを思い出してもらおうことです。仕事などで困ったことがあれば、私たちの事務所に来て、「リージョナル・コネクションズに戻ってきてください。仕事が見つからなかったと言ってください。アパートが見つからないと言ってください。もしアドバイスをもらっても、解決できなかつたら、また相談してください。そして仕事が見つからないと言ってください」。私たちはすでに友人だから私たちのところに来るでしょう。私たちは、彼らがモーデンに来る前にすでにつながりがあります。だから、私たちが多くの時間を割いているのは、困っている人が来てくれることなのですが、それに応えるのは本当に難しいです。例えば、保険証の申請書に間違った住所を書いてしまった場合、どうやってそれを変更するのか。リージョナル・コネクションズはこのような問題を解決できるので、私は多くの時間をリージョナル・コネクションズに移民を送ることに費やしています。リージョナル・コネクションズは、彼らの抱えているケースの負荷を考えると、いい仕事をしてくれています。

上記の会話は、候補者の選考を担当する組織と、アフターケアを担当する組織がしながら、移民も職員も見知らぬ者同士であることから生じる問題を示している。リージョナル・コネクションズの定住担当者 (Settlement Worker) が、移民が到着した後、必ずしもフォローアップを行わないという事実は、積極的に懸念を表明する移民は十分な支援を受けられるかもしれないが、自信のない移民や社会的でない移民は、黙って課題に苦しむことになるかもしれないことを示している。

## 日本へのアドバイス

移民を受け入れることで人口問題に対処し、経済を成長させたいと考えている日本の地域社会へのアドバイスを求めた。IC は、移民に経済的な理由で受け入れること以上のものを提供することの重要性を示している：

IC：プログラムをデザインする前に、何が魅力なのかを考える必要があります。子供たちに何を提供できるか？安全とか、安心とか、田舎町のライフスタイルとか。それが魅力的でなければなりません。

一部の裕福な国で経済的な機会が提供されているのとは対照的に、ICはニューカマーが地域社会に定着する機会を広げることを推奨している：

IC：ドバイでは大金を手にすることができますが、ビジネスを持つことも、家を持つことも許されません。

ドバイ型の移民政策は、安価で一時的な労働力を提供することには成功しているが、意図的に、移民を長期的で有意義な社会の一員から排除している。配偶者や子供と引き離された労働者は、家族の同行が許される国への移住のために、ひたすらお金を貯めている。ICは、ドバイ型の移民政策がカナダにどのような利益をもたらしているかを説明している：

IC：フィリピン人やインド人など、すでにドバイに5年間滞在して来た者の割合が非常に高いのです。子供と離れ離れになっていたかもしれません。ドバイでは家も買えないので、仕事が終われば移住も終わりです。ただ、給料がとても良いので、短期間で稼げます。(カナダに)移住するにはある程度のお金が必要だから、それが助けになります。

カナダへの移民は、少なくとも当初は、ドバイに比べて必ずしも収入が多いとは限らない。しかし、カナダの戦略は高い賃金を提供することで競争するのではなく、魅力的な医療、教育、雇用の機会、治安の良い国の永住権・国籍を提供することで競争するのである。ICは、高い賃金を提供することで移民をグローバルに獲得しようとすることに警鐘を鳴らしている：

IC：家族を連れていけないなら、短時間で山ほど稼げるところに行くだろう。子供と離れ離れになるのなら、当然、一番給料の高いところに行くだろう。

FMは雇用を提供するだけでなく、移民を受け入れる環境を提供することの重要性を強調している：

DO：もしあなたが、日本のような国で自治体の代表として働いている人とテーブルを囲んでいて、その人がこれから始めようとしているとしたら、特に多様性からスタートしていない場合、どんなアドバイスをしますか？

FM：移民に仕事を持たせなければなりません。彼らを歓迎しなければなりません。

ん。彼らを助けなければなりません。そして、15 家族くらいの十分な人口を確保しなければなりません。いつかは異種族間の結婚が起こるでしょう。したがって最初の人口を確保しなければならないし、労働者を必要とする企業が存在しなければならぬのです。

移民受け入れに成功した 10 年後、現 COM のバーリー市長（Sumner, 2022 より引用）が、ニューカマーに地域の利点を強調して伝えることの重要性を信じ続けていることは興味深い：

私たちは、モーデンが人々にとって立ち止まる場所だけになることを望んでいません。というのも、成長するということは、ずっとここにいなかった人たちがここに来るということであり、そのような人たちは、来た時と同じようにここを去っていく可能性が高いからです。ずっと居続けてほしいのです。

最後に IC は、小規模コミュニティの人口問題にタイムリーに対処することに関して、注意を促している：

IC：カナダには、穀物エレベーターと 3 軒の家しかない町がたくさんあります。では、どうやって生活を取り戻すのか？人を雇うためにはビジネスが必要です。ビジネスには人が必要です。サービスが必要です。サービスを受けるためには人が必要です。マニトバ州のいくつかの過疎化した町については、何から手をつけたいのかさえわかりません。

モーデン市は、人口（約 5,500 人）の規模が大きくなり、住民の平均年齢が高齢化する前に、実験的の移民政策を開始した。農業と製造業は、盛んではないにせよ、存在していた。しかし、IC が示すように、マニトバ州には、再生が現実的でなくなるほど悪化した地域がある。

## MCDII は何が違うのか？

以下のセクションでは、インタビューから得られた情報を要約する。表 4 は、MCDII の主な特徴を示している。

インタビューでは、移民を選考する前に地元企業の現在と将来の雇用ニーズを正確に把握することの重要性が強調された。これには、調査研究だけでなく、企業が経済拡大に必要な人材を確保できるよう、経済界との関係構築も必要である。IC による

表4：モーデン地域主導型移民計画 (MCDII) の特徴

特徴	説明
雇用	COM 入国管理局では、地元の雇用主に対する継続的な調査に基づいてニーズを算出している。
移民仲介業者	COM 移民局では、移民コーディネーターが申請者と直接スカイプ面接を行うことで、コンサルタントの利用を控えている。
トライアル訪問	すべての申請者は、COM の承認を受ける前にモーデンを訪問しなければならない。
抑制と均衡	すべての応募者は、匿名の選考委員会によって承認されなければならない。
資格	承認された申請者はカナダ永住権を取得。
配偶者・子供	承認された申請者は、扶養家族とともにカナダに入国する。
移住資金	承認された申請者は、個人の貯蓄でカナダに入国する。
送迎と移住支援	空港からの送迎；1 週間分の宿泊施設；1 週間分の食料品
広報	COM は地元メディアで移民を紹介し、ホームステイを推進し、地元住民が移民と交流できるイベントを開催している。
言語支援	RC (リージョナル・コネクションズ) が提供するクラス
基礎サポート	RC が提供する教育、住宅、雇用などの支援
人生設計	RC が提供するセツルメントワーカーによる支援

と、現代の企業経営者は、労働者を要請するために COM の移民局に直ちに連絡できるといふ。

市政府は、モーデン市民全員のニーズに応える責任があるが、移民局は、モーデン市のビジネス・コミュニティの成長を支援することに主眼を置いている。議論はされなかったが、すべての住民が現在行われている移民政策に賛成しているわけではないことは予測できる。COM の移民局は、ビジネスのパートナーとして、また移民の擁護者として機能している。移民増加の是非を判断するものではない。

MCDII の人気は、主にモーデン市に定住している移民からの口コミによって、隔月で数千もの応募を集める結果となった。この好循環により、COM の移民局が選ばなければならない申請者数が増えている。最初の申請にはコンサルタントを起用することもあるが、COM の移民コーディネーターは、申請者とその家族とスカイプで面接を重ね、少数 (5%以下) に絞り込んでいる。FM と IC の両氏は、面接と選考プロセスの第一の目的は、適切な労働者を見つけることではなく、モーデン市に定住する可能性が最も高い申請者を見つけることだと強調した。雇用も重要だが、応募者が多いということは、それだけ優秀な人材が集まっているということだ。この点から、移民コーディネーターは、申請者がモーデン市に定住する素地があると考えた基準に焦点を当てて選考を行う。そのような基準には、モーデン市に家族がいること、小さな



町に住んだ経験があること、小さな子供がいることなどが含まれる。

マニトバ州指名プログラム (MPNP) は、熟練労働者とその家族を対象としたプログラムである。そのため、高齢者のケアを提供する医療従事者など、モーデン市が必要とする多くの非熟練労働者は、このプログラムによる移民の資格はない。COM の移民コーディネーターは、MPNP で募集されていない職種を埋めるため、申請者の配偶者の資格を慎重に検討している。IC によると、MPNP の熟練労働者カテゴリーである溶接工の仕事に就く申請者を審査する際、移民コーディネーターは、MPNP では認められていない医療補助者として働ける看護の経歴を持つ配偶者も探すという。言及はされていないが、申請者と配偶者双方に満足のいく雇用を提供することで、移民がモーデン市への永住を決定する確率が高まる。

選考プロセスで注目すべき点のひとつは、申請者の審査において移民コーディネーターに非常に大きな裁量権が与えられていることである。FM は、近隣のウインクラー市が経験した、移民コンサルタントが MPNP の規則を守らず、連邦政府が介入したことについて言及している。このような歴史を念頭に置いてか、COM は独立した匿名の選考委員会を設け、移民コーディネーターが推薦する各候補者に最終的な承認を与える役割を担っている。

通常 1 週間ほどの日程で行われるトライアル訪問は、おそらく MCDII の最も斬新な取り組みであろう。候補者は、モーデン市から MPNP プログラムの候補者として推薦される前に、個人負担でモーデン市を訪問するよう招待される。この訪問は、移民コーディネーターが、候補者がモーデン市への移民に適しているかどうかを評価することができる最終的な長時間の対面面接の役割を果たす。逆に言えば、この訪問は、長く厳しい冬の地方にある小さな町に移住することの意味を候補者に考えてもらう機会にもなる。訪問の利点の一つ目は、最も真剣な候補者以外を排除することである。利点の二つ目は、候補者の母国文化を共有している住民に、移民希望者と情報交換する機会を与えることである。IC によると、こうしたモーデン市の住民は、移民申請者が移民コーディネーターに隠していた、カナダの他の場所に住んでいる親戚の存在などの情報を知ることもあるという。モーデン市の移民は一般的に、自分たちの文化集団の評判を守りたいと願っており、内部情報を提供することで選考プロセスに貢献することもできる。

MPNP は、熟練労働者が永住者としてカナダに来ることができる。つまり、カナダに降り立った瞬間から、移民は COM の推薦で永住権を得たにもかかわらず、好きな場所で自由に働き、住むことができるのである。これは一見デメリットのように見えるが、最も適した応募者を選ぶ徹底した選考プロセスが実施でき、移民が滞在したくなるような歓迎ができるという重要性を示している。

多くの移民は主に経済的な理由で国を移るが、彼らが定住する理由はあまり理解

されていないことが多い。IC が示すように、家族から引き離された独身男性は、ほぼ必然的に給料の高いところに行くために仕事や都市、国を変える。しかし、家族と一緒に来た移民は、医療、教育、治安、歓迎されるコミュニティなど、生活の他の側面が優位な場合、給与を優先する傾向が弱まる可能性がある。IC によれば、人間関係は選考の過程でスカイプでの会話やメールのやり取りを通じて築かれる。また、空港で出迎えを受け、1 週間の休養が与えられるモーデン市まで送迎されることもある。このような活動は、ほとんどの移民にとってカナダで唯一の友人のいる町であるモーデン市に移民を「結びつける」役割を果たす。

モーデン市への移住は、下見も含め、ほとんどの移民にとって高額であり、その多くは移住のために何年も貯蓄に費やす。COM は、候補者を選択し、最初の歓迎プロセスに費用を負担するが、それはカナダに移動する移民のために支払うことはない。むしろ、移民は、彼らが雇用を通じて自活できるようになるまで、カナダで生活するための費用を持っていることを証明する必要がある。移民にとっては難しいことだが、COM は承認した移民の存在を説明する責任があるため、彼らに自活させることは不可欠である。経済的援助を必要とする移民は必然的に地元住民の怒りを買うことになるが、彼らは移民が自分たちの街に招かれる理由をあまり理解していないかもしれない。

モーデン市の企業との提携に加え、COM の移民事務所の第二の機能は、移民の役割などを広報することである。IC によると、これは主に、1) 地元新聞にプロフィールを掲載する、2) 地元住民が臨時的に自分の住居に移る移民を受け入れるホームステイを促進する、3) 地元住民が自分たちのコミュニティーに新しく来た人に会って挨拶する機会を与える歓迎イベントを開催する、ことである。また、移民がどのような出身なのか、なぜモーデンに来たのか、地域社会に貢献するために何をしているのか、新しい生活でどのような問題に直面しているのか、などについても理解を深めることができる。

興味深いことに、IC は、各移民グループが独自のイベントを開催するようになり、そのような活動から生まれる宣伝効果によって、個人のプロフィールを公表する必要性がほとんどなくなったと指摘している。ホームステイ・プログラムは、移民に提供されたトランジション・アパートメント（仮の住まい）が満室になり、住居が空くまで地元住民の家に一時的にホームステイする必要性が生じたことから生まれた。このような出会いの結果、永続的な友情が生まれることも多く、ニューカマーがモーデンに根を下ろす理由が増えた。現在、このホームステイ・プログラムは臨時的に利用されている。最後の活動として、新しく移住してきた人たちが地元住民と一緒に集まる歓迎イベントがある。

MCDII のあと一つの側面は、連邦政府が管理するリージョナル・コネクションズ

(Regional Connections ; RC) 移民局の活動に関わることである。この事務所は、COM の移民局とは独立して運営されているが、両組織の間にはある程度の協力関係が存在する。RC の運営については、この調査の範囲外であるため、簡単な概要を述べるにとどめる。

RC は、連邦移民制度の一部門で、カナダ到着後の移民定住活動を支援している。現在、RC はマニトバ州の農村地域に 4 つの事務所を構えている。RC の活動は、4 つのカテゴリーに分けられる：1) 到着後の定住サービス、2) 雇用サービス、3) 言語サポート、4) 地域統合サービスである。IC と FM は、モーデン市にある RC 事務所が上記のカテゴリーにおいて重要な役割を果たしていると述べている。特に IC は、COM 移民局では対応できないことが多い問題（健康保険の申請、運転免許証の取得など）について、RC のスタッフがニューカマーを支援できることに言及している。

モーデン市 RC オフィスの重要な役割のひとつは、移民とセツルメントワーカー (Settlement Worker) をマッチングすることである。セツルメントワーカーは、生活設計に役立つ情報やページが掲載されたハンドブックを提供する。このプロセスは、移民が RC 事務所を訪れ、支援を要請することから始まり、その後、セツルメントワーカーを紹介する。ハンドブックの例は付録 B に掲載している。

COM の入国管理局は、現在および将来の雇用枠を埋める応募者の選考を担当しているが、雇用を確保せずに到着した移民は、モーデン RC の支援を受けなければならない。同様に、COM はニューカマーに仮の住まいを提供しているが、定住住宅の確保を必要とするニューカマーは、モーデン RC を通さなければならない。このため、COM の移民コーディネーターと個人的な関係があり、雇用や住居の支援を受けようとするニューカマーが、面識がなく別の事務所で業務を行っている RC のスタッフに案内されることが多く、混乱が生じる。

IC は、RC のセツルメントワーカーに対する不満を示した。粘り強く支援を求める移民は十分な支援を受けられるかもしれないが、支援を求めない移民は一人で悩むことになる。RC のセツルメントワーカーには、移民が抱える問題を解決した後のフォローアップ体制がないため、信頼関係のある人と話ができる COM の移民局に戻ってくるニューカマーもいる。しかし、COM の移民局では、そのような人をモーデン市 RC の事務所に紹介することしかできない。2 つの事務所が異なるサービスを提供することが、現在のシステムの欠点のようだ。

本研究では、MCDII の実施における COM の移民局の役割に焦点を当てた。今後の研究では、COM の移民政策、特に近代 RC が実施する到着後のサービスや COM の移民局におけるコミュニティイベントの企画など、COM の移民定着率の高さにつながる側面を明らかにする必要がある。

## 参 考 文 献

- Brown, N. R. (2017). Housing experiences of recent immigrants to Canada's small cities : The case of North Bay, Ontario. *Journal of International Migration and Integration*, 18, 719-747.
- Environment Canada. (2023, August 2). *Temperature and Precipitation Graph for 1981 to 2010 Canadian Climate Normals : Morden CDA*.  
[https://climate.weather.gc.ca/climate\\_normals/results\\_1981\\_2010\\_e.html?stnID=3626&autofwd=1](https://climate.weather.gc.ca/climate_normals/results_1981_2010_e.html?stnID=3626&autofwd=1)
- Government of Canada. (2019). *Economic Profile Series : Morden, Manitoba*.  
<https://www.canada.ca/content/dam/ircc/migration/ircc/english/pdf/immigration-matters/economicprofile-morden-manitoba-en-final.pdf>
- Government of Canada. (2019b, April 29). *Growing a community through immigration*.  
<https://www.canada.ca/en/immigration-refugees-citizenship/campaigns/immigration-matters/stories/growing-a-community-through-immigration-morden-manitoba.html>
- Government of Canada. (2022, February 9). Census in Brief : Population growth in Canada's rural areas, 2016 to 2021.  
<https://www12.statcan.gc.ca/census-recensement/2021/as-sa/98-200-x/2021002/98-200-x/2021002-eng.pdf>
- Government of Manitoba. (2019). *Winkler and Region : Economic Profile*.  
[https://www.gov.mb.ca/jec/lmi/pdfs/southcentral/winkler\\_sla\\_2021.pdf](https://www.gov.mb.ca/jec/lmi/pdfs/southcentral/winkler_sla_2021.pdf)
- Henderson, J. (2022, March 4). Manitoba town inspires Alberta immigration strategy. *St. Albert Gazette*.  
<https://www.stalbertgazette.com/local-news/manitoba-town-inspires-alberta-immigration-strategy-5114048>
- Hutchins, A. (2018, August 22). What's killing rural Canada : Crime, opioid abuse, boarded-up businesses and fleeing populations are destroying the country's heartland. Can small-town life be saved? *Maclean's*. <https://macleans.ca/killing-rural-canada/>
- Hyndman, J., Schuurman, N., & Fiedler, R. (2006). Size matters : Attracting new immigrants to Canadian cities. *Journal of International Migration and Integration/Revue de l'integration et de la migration internationale*, 7, 1-25.
- Jones, S. M. (2013, April 18). Agricultural Research Stations. *The Canadian Encyclopedia*.  
<https://www.thecanadianencyclopedia.ca/en/article/agricultural-research-stations>
- Kalbach, W. E. (2022, July 13). Population of Canada. *The Canadian Encyclopedia*.  
[https://www.thecanadianencyclopedia.ca/en/article/population`](https://www.thecanadianencyclopedia.ca/en/article/population)
- Kelly, M., & Nguyen, M. (2023). Choosing to Stay : Understanding Immigrant Retention in Four Non-metropolitan Counties in Southern Ontario. *Journal of International Migration and Integration*, 1-21.
- Lyon, D. M. (2012, September 11). Morden. *The Canadian Encyclopedia*.  
<https://www.thecanadianencyclopedia.ca/en/article/morden>
- Manitoba Historical Society. (2023, August 2). *Manitoba Communities : Morden (City)*.  
<http://www.mhs.mb.ca/docs/municipalities/morden.shtml>
- Manitoba Immigration. (2023). MPNP Expression of Interest Ranking Points Grid.  
<https://immigratemanitoba.com/wp-content/uploads/2018/02/mpnp-expression-of-interest-ranking-points-grid.pdf>

- Moazzami, B. (2015). *Strengthening rural Canada: Fewer & Older: Population and Demographic Challenges Across Rural Canada*.  
<https://www.strengtheningruralcanada.ca/file/Fewer-Older-Population-and-Demographic-Challenges-Across-Rural-Canada.pdf>
- Morden. (2023, August 2). In *Wikipedia*.  
[https://en.wikipedia.org/wiki/Morden,\\_Manitoba](https://en.wikipedia.org/wiki/Morden,_Manitoba)
- Nguyen, M. (2020). Why migrants stay in small and mid-sized Canadian cities: Towards a new analytical framework using a life course approach. *RCIS-CERC Working Paper Series*, 1-14.
- Rounds, R. (2001). An analysis of the population of agro-Manitoba. Rural Development Institute (RDI) Brandon University.  
[https://www.brandonu.ca/rdi/files/2015/08/Analysis\\_of\\_The\\_Population\\_of\\_Agro\\_Manitoba.pdf](https://www.brandonu.ca/rdi/files/2015/08/Analysis_of_The_Population_of_Agro_Manitoba.pdf)
- Singer, C. R. (2019, January 24). Immigrant Women Having More Children. *Immigration.ca*.  
<https://www.immigration.ca/immigrant-women-having-more-children/>
- Statistics Canada. (2021). *Census Profile, 2021 Census of Population: Morden Manitoba* [Data Set].  
<https://www12.statcan.gc.ca/census-recensement/2021/dp-pd/prof/details/page.cfm?Lang=E&SearchText=Morden&DGUIDlist=2021S05100553&GENDERlist=1,2,3&STATISTIClist=1&HEADERlist=0>
- Sumner, C. (2022, February 15). “We can’t be ignored,” says Morden Mayor reflecting on growth in 2021 Census. *Pembina Valley Online*.  
<https://www.pembinavalleyonline.com/articles/we-can-t-be-ignored-says-morden-mayor-reflecting-on-growth-in-2021-census>
- The Canadian Business Journal. (2023, August 2). *City of Morden*.  
[https://www.cbj.ca/city\\_of\\_morden/](https://www.cbj.ca/city_of_morden/)

**【謝辞】** 本研究は令和5年熊本学園大学海外事情研究所学術研究助成の成果である。研究に際する調査をご支援いただいたことを記して御礼申し上げたい。



付録 A : MPNP Expression of Interest Ranking Points Grid

Assessment Factor	Ranking Points
<b>Factor 1: Language Proficiency</b>	
<i>First Official Language</i>	
CLB 8 or higher	25 per band
CLB 7	22 per band
CLB 6	20 per band
CLB 5	17 per band
CLB 4	12 per band
CLB 3 or lower	0
<i>Second Official Language</i>	
CLB 5 or higher (overall)	25
<b>Maximum Points – Factor 1</b>	<b>125</b>
<b>Factor 2: Age</b>	
18	20
19	30
20	40
21 to 45	75
46	40
47	30
48	20
49	10
50 or older	0
<b>Maximum Points – Factor 2</b>	<b>75</b>
<b>Factor 3: Work Experience</b>	
Less than 1 year	0
1 year	40
2 years	50
3 years	60
4 years or more	75
Fully recognized by provincial licensing body	100
<b>Maximum Points – Factor 3</b>	<b>175</b>
<b>Factor 4: Education</b>	
Master's degree or Doctorate	125
Two post-secondary programs of at least 2 years each	115
One post-secondary program of three years or more	110
One post-secondary program of two years	100
One-year post-secondary program	70
Trade Certificate	70
No formal post-secondary education	0
<b>Maximum Points – Factor 4</b>	<b>125</b>
<b>Factor 5: Adaptability</b>	
<i>Connection</i>	
Close relative in Manitoba	200
Previous work experience in Manitoba (6 months or more)	100
Completed post-secondary program in Manitoba (2 years or more)	100
Completed post-secondary program in Manitoba (one year)	50
Close friend or distant relative in Manitoba	50
<i>Manitoba Demand</i>	
Ongoing employment in Manitoba for 6 months or more with long-term job offer from the same employer	500
Invitation to Apply under a Strategic Initiative	500
<i>Regional Development</i>	
Immigration destination in Manitoba is outside of Winnipeg	50
<b>Maximum Points – Factor 5</b>	<b>500</b>
<b>Factor 6: Risk Assessment</b>	
Close relative in another province and no close relative in MB	0
Work experience in another province	-100
Studies in another province	-100
Previous immigration application to another province	0
<b>Maximum Points – Factor 6</b>	<b>-200</b>
<b>Maximum Overall Points: 1000</b>	

## MPNP Implementation in Morden : Investigation of an Immigration Program in a Rural Canadian Municipality

David OSTMAN

Many small Canadian towns experience aging populations, low birthrates, and significant depopulation as young workers relocate to large urban centers in search of better opportunities. The national birthrate has declined below the long-term replacement level, exacerbating the issue. Work opportunities in major urban centers are more abundant, with wages in Canada's large cities estimated to be roughly 30 percent higher than those in rural areas. Consequently, there has been an exodus of young workers from the countryside, negatively impacting rural populations and often leading to reductions in civic services. While these trends have generally resulted in the slow depopulation of rural areas in Canada, some communities have achieved population growth and economic expansion through immigration initiatives. This research examines Morden, Manitoba, a small city that has utilized the Manitoba Provincial Nominee Program (MPNP) to implement immigration policies tailored to meet local business needs and align with the characteristics of the local residents. Through interviews with an immigration coordinator and a former mayor, this study identifies the factors contributing to the success of Morden's initiative.

